

令和5年度 第2回白馬村総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和6年2月9日(金)
開会 午後 1時28分 閉会 午後 2時54分
- 2 会 場 白馬村役場2階 庁議室
- 3 出席者 白馬村長 丸山 俊郎
白馬村教育委員会
教 育 長 横川 秀明
職務代理 幅下 守
委 員 松沢 亨
委 員 武田 弥生
委 員 服部 知子

(説明等のために出席した職員)

総務課長 田中 克俊

(事務局)

教育次長 横川 辰彦
生涯学習スポーツ課長 松澤 宏和
子育て支援課長 内山 明子
教育係長 今井 志保

- 4 協議事項 (1) 令和6年度教育関係予算について

5 議事の概要

1 開 会

[教育次長] 開会を宣言した。

2 あいさつ

〔白馬村長〕新年初日から非常に大きな震災があり、今なお避難所等の生活をされている方が多くいる中で、避難所での学習の様子とか、学校もまだまだ大変な状況にあるというところを目にして心が痛んでいる。白馬村は大きな被害もなく、学校も特に大きな問題はない。先日、南小学校の裏山スキーに参加した。日常が普通にあることを改めてありがたく感じた。平常時に様々な課題を解決しておかないと、不測の事態に滞る。こうしたタイミングで課題解決を図らなければと改めて感じている。

3 協議事項（議長は丸山村長）

（１）令和６年度教育関係予算について

資料に沿って、教育次長が教育委員会事務局全体の予算の特徴について説明し、そのあと３課の課長がそれぞれ、主要検討事項、重点事業について説明した。

〔松沢委員〕給食費負担軽減策の件で、委員会で採択なのに本会議で不採択と聞いた。陳情書の取り扱いについて聞きたい。

〔村長〕今回の陳情は議会に上がってきた。村長に来ることもある。予算は村長が編成するもの。昨年度は無償化で陳情が出されて不採択になった。自分の方にも無償化の話が来たが、予算の状況からすぐ無償化はできない、負担軽減に関しては今後考えていくと回答した。今回、議会に負担軽減という形で陳情が出た。議会も軽減自体を反対している人は特にいない。あくまで今後の予算編成で、村の財政状況を議員も知っているのだから、その中では厳しいだろうと。どちらかにしなくてはならず、最終的には不採択が多かった。委員会は、総務社会委員会と産業経済委員会の２つに分かれており、今回、総務社会委員会では採択の判断をした議員が多かったが、本会議では、不採択を選んだ議員が多かった。趣旨は賛成しているが、実際に今度の予算編成で軽減できるかという点、難しいだろうから不採択にしたようだ。採択した方は、どうにかやってほしい、予算を見ると厳しいのはわかるが、削るところを削って、何とか出来るのではないかと判断したようだ。それを受けて、最終的に私がやるかやらないかを判断をするのだが、実際に今年度の予算では厳しいのが現状。あとは一度予算を付けると、ずっと付けなければならないので、例えば１円だけでも付けると、それは計算が非常に面倒なことになり、最低でも１０円単位とっている。昨年の段階から、軽減したいという意思はある。だが、今回の予算では厳しく、議会で不採択になったものを強引に押し通して付けると、今度は、議会は住民の代表で構成されている組織なので、議会との関係性の問題も出て来る。子育て支援は、予算の基本の柱としているので、予算の余裕があれば、負担軽減を進めていきたいという意思は全く変わ

っていない。今後、特にそういう要望をされなくても、予算を付けられれば、付けたいと思っている。

[松沢委員]総合計画の重点事項にも、子育ては掲げられている。給食費だけが子育てではないが、議会に陳情書が出され、まず委員会で協議されたから、事務方の入る余地はなかったと捉えていいか？

[村長]議会の陳情書は、議員が決断、決定する事項である。説明者は陳情者で、陳情者が内容説明をして、それに対して質問があればその方が回答し、予算状況とかに対して質問があれば行政が答える。あくまで委員会の決定、議会の決定である。

[松沢委員]事務方でも軽減を検討したと言っていたが、方向なり出た考えを聞きたい。

[村長]教育課としては、あくまでやってほしいというスタンスで、少しでも出来ませんかと予算要求してくる。私としてもやりたいと思っているが、全体予算の中で今年度やるのは非常に厳しく、住民の代表である議会で不採択になったものを、私が無理やり押しとおし、さらに予算が厳しい中ではやりづらい。これだけが子育て支援ではないので、今年は他の方に何か付け、次の年度で、少しでも軽減に持って行けるようにしたい。来年度以降に向けて、財源を確保できるものへ先行投資をして、確実にできるようにしたい。だが、まだそれに関しても最終決定は出ていない。

[幅下委員]中学校のタブレット更新は国庫補助とあり、8年度に小学校を行いたいとあるが、小学校も国で補助してくれるのか？もしそれが自治体で更新になると、大きい市町村はどんどん進み、教育格差が出かねない。先の見通しと、GIGAスクールは白馬村が率先して始めたことなので、力を入れてもらいたい。

[教育次長]全国的に更新が必要なのはわかっているの、国では、国庫金を交付して、県ごと基金を作る指示をした。更新用の基金を造成して、この基金を原資に、各市町村のタブレット更新に補助をする。令和6年度の中学のタブレット更新は、県の共同調達で、全県統一の仕様書で共同更新という話になっている。これから先も、このような形になるかと思う。ただ高校は、既に端末については個人持ちという方針が出ており、もっと先のことは不明だが、ランドセルと同じように個人が用意する可能性はある。

[松沢委員]図書館の複合施設で、検討事項が多岐にわたって方針が決定しないと聞いたが、その検討事項の内容を聞きたい。

[生涯学習スポーツ課長]図書館等複合施設は、まず1階に子育て施設で2階に図書館のモデルプランを作成した。費用についても検討した。村の負担が非常に大きく、現在は、2階建ての図書館施設ではなく、平屋で、例えば最初に子育て施設を建設し、その後に図書

館と考えている。トータルすると割高になるが、単年度で見たときには村の負担が下がるかもしれないということで、シミュレーションをしている。最終的に複合施設でいけるのか、それとも分けた形で子育てを優先するのか検討しているところ。

[幅下委員]箱物の施設はお金がかかる。分けても、今の村の財政なら出来ない可能性もあるのか？そのうち小学校が老朽化で、建て替えを考えなければならない。初め、複合施設ができると聞いて良いと思ったが、なかなか予算的な問題で進まない。教育委員会はこれからも箱物が出てくるので、長期的な計画の見通しはあるのか？

[村長]給食に関しても、最終的には3月議会での話しになるので、現段階ではまだ決定している事項ではない。複合施設に関しても、神城断層地震があったり給食センターが建ったり、当初と違う状況もあるので、現在の財政を見ていく中では、やはりたくさん課題がある。その中で破綻をしないように、各課で今後どういった施設が必要になるか、それを何年度にやるかを整理した中で、この3月に一定の方向性を示すという約束をしている。今は、その洗い出しをしている。どの選択肢になるか、最終的にはできないという可能性もある。村民が希望している施設だと理解はしている。先々のことを考えた上で、どういったものにしていくか、シミュレーションしながら、何とかうまくできる方法がないかと頭を悩ませている。

[総務課長]教育委員会の施設に限らず、村が持つ施設については、それぞれ個別施設計画がある。何年経つ前に更新、それに対処する応急的な措置、何年経てば寿命で建てかえるといったもの。村全体のどの施設を統合していくのか、これが壊れたときこっちに統合するというものもある。立地適正化計画というコンパクトシティを目指すものもある。それらが複雑に絡まっており、また財政もあるので非常に難しい。マスタープラン的なものがあり、何年にはこういうものを作りたい。それに向かっていくのが理想だが、うまくマッチング作業が出来ていないのが現実。小学校の話があったが、昭和40年代にあった校舎でコンクリートだが、その寿命ももう調査で出ているので、それは重要な観点と捉えて、それを主にして、他の計画を整理してトータル的に進めている。

[武田委員]図書館の今の利用者数、1日何人が利用しているか？

[生涯学習スポーツ課長]今は資料がなく具体的な数字は答えられない。後日回答する。

[武田委員]そういう施設が欲しいという声もあれば、いらないという声もある。ネット社会になってきて、どれぐらいの人数が図書館に行くのか。それより小学校だろうという声もある。ある程度、勇気ある決断も必要かと思う。何年ぐらいかけているのか。

[教育長]当初は震災の前からなので、足かけ10年ぐらい。途中、村民のワークショップも何回かやっている。

[武田委員]3月にはある程度決まるのか。

[村長]この前の3月に、官民連携手法では事業収益が出にくいという結論が出て、それでもどこかやってくれる企業がないかを6・7月ぐらいまで探して、9月の段階で、官民連携はできないと判断した。行政だけで進めるにしても、分離型もあるし、分離した場合には図書館を将来どうするか？図書館が必要かという問題もあり、図書館は本を読むための場所じゃなく、複合施設の中の一環として捉え、3月は、これまで先延ばししてきた判断をしないといけない。

[武田委員]人件費や会議、いままで膨大な時間を使い、それなりの税金も使っているのだから、そろそろ決断していただきたい。

[服部委員]今どうなっているか、止まっている感じに見える。作ると維持費も含め莫大な経費がかかる。良いところ悪いところ含め、何が必要なのか？これだけタブレットで読書をするようになってるので、今の図書館をリニューアルするという考えもあるかもしれないし、もう一度、何が必要か村民に聞いた方が良い。

[教育長]今までワークショップも含めて、何回か村民の意見を聞く機会を作っている。そのデータも見たが、年代別にずいぶん考え方が違う。将来のことを考えると、作ることによって財政負担が大きくなり、箱物の将来を考えたとき不安が出てくる。議会でも同じような指摘をされている。様々な形で意見を集約する中で、3月には、ある程度、方向性を出さなくてはならない。期間が長くなって申し訳ないが、これだけ長く検討しても、こういう状況だと理解していただきたい。

[幅下委員]教育課は人件費が多くを占めている。それは支援員の数が多いから。特別支援を利用する方が増えている現状で、北小も中学も、何年か前から自情障が2クラスになり、まだ増える傾向にある。LD等通級教室も1名教員を増やしてもらったが、県の配置だけじゃ足りず、10何年か前に比べたら、各学校に村の支援員がすごく多い。昔は1人か2人だったのが、今は6人くらいずつ配置してもらい、本当にありがたい。でも、まだ学校から困っていることがどんどん出て来ているので、こういう支援はこれからも増やしてほしい。その中で、外国籍をルーツに持つ子どもたちは、いろんな個性を持っており、日本語も喋れないので、かなりの支援が必要。県も少しは手厚くしているが、業務の枠が決まっているので、なかなか難しい。県の主幹と話したとき、補助したいが、なかなか難しい。白馬村は、外国のお客をどんどん呼び、外国の人働きに来ており、そういう取り組

みをしているのだから、村も助けてもらっては？と言われた。少しでも子どもたちのために支援できる体制を今後もお願いしたい。

第3の居場所がようやく白馬村にも出来て、スクールカウンセラー、ソーシャルスクールワーカー、村の支援員が入ってケース会議をしながら、今までやって来ているが、結局、学校か家かその二者選択だけじゃ難しい時代になっている。第3の居場所は、どうしても必要。中間教室的なものが、白馬村にも出来たらいいと思っていたところ、やっていただけるのはありがたい。フリースクールもできており、多様なニーズに応えるような組織が出来ている。だが、やはり中間教室は公的な立場を大事にして、子どもを支えてほしい。

[村長]支援の関係で、特に日本語が話せない子どもに関して、教育長からも状況を伺っている。県と解決策に向けて話しをしたが、県も課題を非常に認識している。これからさらにそういう方が増えていく可能性があるので、何かしていかなければならないと話した。

第3の居場所は当初、B&G財団の支援だけで行う予定だったが、物価高騰もあり、それだけでは厳しいので予算も増やした。議会も、そういったニーズは非常に理解している。今後、村でもそういった支援をすることに関しては、比較的賛成してくれると思っている。

[教育長]村として、多様な人材を受け入れ、外国籍の子どもたちがこんなに多くなっている状況なので、村の予算をつける中で、対応していくのは当然である。

県のフリースクールの状況は、令和6年に、フリースクールの認証制度ができ、県でも公的な支援をする方向で、2月議会で話し合っている。県内には300人を超える不登校児童生徒、並びにフリースクールは70から80あると言われている。これが認可される中で、どうなるかは不透明だが、白馬にも民間のフリースクールが昨年9月にできた。現在4人の小学生がそこに来ている。その内容や出席をどうするか、1月に南小の校長先生や私たちと話し合いの場を持った。多様な子どもたちを受け入れる場として、学校と連携を持ってほしいと話した。公的な支援云々という話が、ちょうど県で出ているので、ゆくゆくは、村も支援する方向になる可能性はある。県の情勢を見ながら、村としても出来ることを検討していかなければならない。ガイドラインも作っているが、これから不登校や多様な子どもたちが増えてくることは間違いない。村としての施策、方向性も決めていかなければいけない。ぜひ財政の面で、総務課、村長に支援してくれることをお願いしたい。

[武田委員]給食費は周りが無償化しているので、白馬村は？となっていると思うが、子どもは、今の給食センターになってから非常に美味しく、内容も良くなって、満足している。予算の関係で、子育て施策として給食費を無償化にすれば、わかりやすいが、やはりしかるべきところにしかるべき予算をつけてほしい。給食のお金を払えないという家庭も

白馬村は少ないと思う。教育に厚く、先生を増やし、安心して親が子どもを預けられる、そういうところに予算をたくさん使ってほしい。

[服部委員]スクールバスを試験運行するのに、こんなにお金がかかっていると、バスを利用している方も知らないのでは？オンデマンドバスと一緒にするのは、とても良い。観光客もどっちも使えるのは、ぜひやってほしい。

[村長]私も就任１年半になるが、行政のものは民間と比べて本当にお金がかかる。手続きもそう。ちゃんと公的な手続きを踏まなければならない。夏と冬だけの運行になると、他のシーズンの業者の雇用の問題が出て来たりして、高くなっている。

[教育次長]今までは、いつから通年やるのかと言われていたが、今年度の予算で７年度から目指すと明確な方向性をいただいた。

[村長]まずは、この４月からふれあい号と観光のバスを一緒にする。

[松沢委員]たとえばスノーハープの財源の内訳で、村債は新発なのか、例えば過去の償還で借り換えなのか。過去に発行があって、累積なのか、村債の発行のしくみを知りたい。

[総務課長]こちらに上がっているものは、償還の分は入っていない。この事業をやるために、令和６年度に新たに発行するもの。

[松沢委員]残高はどのくらい？

[教育係長]村全体で60億ぐらい。

[松沢委員]ウイングとか箱物だから、維持費がかかるのはわかるが、今後も何か手立てを考えないと、区の会議でも出たが、負の遺産になりつつある。利用者負担だけでは駄目。何か長期的に考えないと、財政を圧迫するだけ。今年の発行だけでこれだけあると聞くと厳しいと思う。

[村長]確かに負の側面はある。村としては活用を考えなければいけない。維持管理費がこれだけ負担になってくると、企業版ふるさと納税を活用したり、ネーミングライツとか、行政なので条例とかを変更していかなければならないが、議会からもそういった声をいただいている。今後のあり方は、しっかり考えなければならない。これが理由で財政を逼迫させている状況は、間違いない。何か、今後に向けて動かなければならない。ネーミングライツの話は当初から課長としているが、オリンピックのマークがついていると簡単にいかない。活用というと、夏はジャンプ台を使って子どものイベントをやった。あのような形でうまく利用しながら、できるだけコストを浮かせられればありがたい。

[生涯学習スポーツ課長]スノーハープやジャンプ台は、来年度以降になるが利用料のアップを検討している。

[松沢委員]特に借金はせず単年度予算で、補えるようになれば村民も安心する。

[総務課長]一概に、全て起債が悪いものではない。交付税措置される部分もある。基本的には、その借金の額が増えていかないように、元金を返す以上には借りないという方針で、毎年予算編成に臨んでいる。

[教育長]教員の働き方改革で、先生方の帰宅時間の統計を毎月出しているが、先生方が一番負担に思っているのは、クラブ指導、部活の指導である。これを令和8年から地域移行として文科省は考えているが、予算だけじゃなく一番の問題は、やはり人材確保。本村の場合、スキーは比較的、外部指導に移っていて先生方の負担が軽減されている。あるいはスイミングスクール、サッカーも同様。バレーボールやバスケットボールは、指導者がいない中で、子どもたちに好きなスポーツをやらせたいと、他の市町村と一緒になっても、財政的な負担をすると同時に、人材の確保が一番課題になると思う。今後、そういった指導者の確保に向けて、教育委員会としても、広くネットワーク、あるいはアンテナを高くしていきたい。先生方も頑張ってくれているが、これ以上の負担は増やしたくない。

[武田委員]外部委託はいいと思うが、サッカーのクラブチームは、郡球に出られなかった。高校推薦も全部、親が動かなければならなかった。学校が全く関与しない。クラブチームは、あくまでクラブチーム。ちょっといい成績をとると学校に張り出されるが、クラブチームはない。インフルエンザで部活動停止の連絡が絆メールで回って来たが、クラブチームは練習をした。テスト週間も部活は禁止されているが、クラブチームはやる。クラブチームも学校と連携をとって欲しい。移行してもいいが、子どもたちのためにそういう点は放置しないでほしい。

[教育長]生徒を第一にする、子供を第一にするのは一番大事。学校組織の中には、例えば運動部だったら、中学校体育連盟がある。それが主催するゲームは、学校が関与する。ところがクラブチームは、また別の大会や別の組織に入っているので、そうすると学校のテスト週間とバッティングしたり、その考慮は難しい。

[武田委員]子供たちからすると、同じ部活という認識。社体という部活。こっちは賞状が貼られるのに、こっちは貼られない。中学生からすると、まだ子どもなので、スキーは社体でも貼られているのに、なぜサッカーは貼られないの？と思う。野球は白馬中から上田西に推薦で行っているが、監督が手続きをしているのか？

[教育長]高校は組織が違って、野球だけは、高等学校野球連盟で組織が違う。サッカーとかほかのスポーツは全部高体連、中体連。高体連、中体連主催の大会は、教員が行かなけ

ればならない。クラブチームは違う。野球と他のスポーツは明らかに団体が違う。簡単には行かないが、これは大きな課題である。

(2) その他

特に発言がないことを確認して、協議を終了した。

4 閉 会

[教育次長] 閉会を宣言した。